

第61回 中・四国小学校体育研究大会（鳥取大会/就将小）プレ大会 報告書

米子市小体研 研究部長 内田 誠

○公開授業

【公開授業①】

学 年	単元名(領域)	授業者	場 所
1年松・竹	跳の運動遊び	渡邊萌楓(T1)・生田美由紀(T2)	就将小体育館
2年松・竹・梅	ボールゲーム	成宮楽人(T1)・田中美里(T2)・ 後藤春樹(T3)	校庭
3年松	保健	西川耕司	教室
3年竹	表現	濱田平良(支援 吉田由紀)	コンベンション
5年竹	ハーフコートバスケット	岡本宗大	湊山中体育館

【公開授業②】

学 年	単元名(領域)	授業者	場 所
4年松	マット運動	後藤春樹(支援 寺本百恵)	就将小体育館
4年竹	小型ハードル	灘脇拓弥(支援 西田亜美)	校庭
5年松	体づくり	小板篤史	コンベンション
6年竹	高跳び	江原 秀	湊山中体育館
6年松	保健(病気の予防)	圓山那穂	教室

※表現、体づくりは、諸事情により授業公開を実施せず。(体づくりは、1学期実践をビデオにより公開)

※上記に伴い、領域別研究会も未実施。

○領域別研究会記録

【器械運動】

成果

- ・1人で練習していた子がいたが、2人が練習に付き合ったことで「できばえ」が伸びた。
- ・練習での関わり方が素晴らしい。
- ・コマ送りにすることで初めて「できてるへん？」と気づけていた。「わたしたちの体育と同じだー！」という声も上がった。大変効果的だったと思う。
- ・積極的に取り組んでいて素晴らしい。ICTでの静止画と挿絵を見比べるのがよかった。

課題

- ・苦手な子でもアドバイスをしなくてはならない。自分でポイントがわかっていないといけない。
- ・動画係+わたしたちの体育の挿絵の口にし点係をつくる。し点が増えることで「できばえ」も上がってくるのでは。
- ・ずっとふり返り板の形が変わっていない。その時間やったことをふり返ることはできるが、これまでやってきたことをふり返ることはできない。ICTも入ってきているので変え時なのでは。

【走・跳の運動(遊び)】

成果

- ・リズム感、テンポのよい授業の進み方で見ている方も心地よい感じがした。
- ・わたしたちの体育のあそこの場面を取り入れているんだなということがわかって嬉しい。

- ・友だちのいいところを見つけて、そういう関わりが体育の授業の中で出てきていた。それが学級経営にも生きてきているんだらうなと良い光景を見た。

課題

- ・段ボールなどで高さを変えた場合、今度は高く跳ぶ分、リズムが変わってくるなど、そういう発見を単元のところどころにも組める、単元構成を変えることなど、少しずつ飛び越えるという楽しさを小型ハードルで味わえるといいのではないかと思う。
- ・サーキット型はアドバイスしにくいのではないかと思った。
- ・子どもたちの好奇心から運動を引き出すというのを考えると、もう少し違う展開があるのではないかと思う。
- ・自分の課題に合ったものを選んでどんどんチャレンジしていくものが、運動量の確保などにもつながっていくのではないか。

【陸上運動】

成果

- ・バンドを足につけることで「みる」視点が明確になった。
- ・ふり返り板を途中で使うことにより、子どもたちが話し合ったことをすぐに活動に生かすことができたとともに、指導者が困り感をもっている子どもへの支援をすぐに行うことができた。
- ・自作の支柱などの教具が有効であった。

課題

- ・「みる」の視点は多くあったが、「支える」を感じる場面が少なかった。意図的な仕掛けが必要。
- ・本時の課題(抜き足)についてのアドバイスがなかった。運動の特性を生かした声かけをどのように生じさせるかが課題。
- ・抜き足が上手くいったという基準や場の工夫があるとよかった。
- ・「わたしたちの体育」の本時の中での使用の工夫が必要。

【ゲーム】

成果

- ・子どもたちが楽しみながら、一生懸命活動する姿が見られた。
- ・子どもたち同士の関わりの中でも、マイナスな発言がなくなかった。

課題

- ・子どもたちの歓声や喜びがもっとあるとよい。的を大きくし、成功体験を増やしてはどうか。
- ・的に当たらない様子が多く見られた。自作のボールを蹴るのは難しかったり、芝生の上では転がりにくかったりしたのではないか。
- ・系統性を意識した単元計画を作成することが必要。(どこで攻守入り交じったゲームを取り入れていくのかなど。)

【ボール運動】

成果

- ・課題を解決するためにみんな協力する姿が見られた。
- ・中間にふり返りを行ったことで、他者と協力する場面を創出することができていた。

課題

- ・めあての設定の仕方を考える必要がある。思考・判断が評価であれば、ノーマークでシュート打つにはどうしたらよいかを探っていく展開にすべき。

- ・指導案の子どものつぶやきを発せさせるために、授業者がどのように問うのかを吟味すべき。

【保健】

成果

- ・自分のことを振り返ってかけていた。ペア活動も全体的に良かった。
- ・紫色の汚れを見せた時がポイント。⇒体操服の持ち帰りなどにつながる。
- ・塩分糖分脂肪分の張りものなど板書の工夫が見られた。
- ・生活習慣の課題が、ピンポイントであった。今の自分たちの行動が習慣につながる。
- ・系統性のある内容が大変よかった。

課題

- ・ICT を活用したアンケートが必要と感じた。
- ・教科書を使っていない様子であった。まとめの場面で教科書の利用してほしい。
- ・課題が多様になってきている⇒教科書はオーソドックスな内容、教員の工夫が課題である。

○考察

①「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方が分かる授業

- ・子どもたち同士、授業者と子どもの関係性がよく、学習に浸れる雰囲気が創出されていた。
- ・協働的な学びを意識していることから「みる」「支える」の場面が多く見られた。
- ・ふり返り板の活用の仕方（形成的評価、話合いのツール）や使用する場面（中間→ツール、終盤→評価）の工夫が見られた。

②体育（保健）の授業に“浸っている”状態が分かる授業

- ・学習活動の工夫が見られ、子どもたちが自己の生活の課題を見出すことができていた。
- ・系統性を意識し、6年間で身に付ける技能を考えた上で易しいゲームや簡易化されたゲームを設定していく必要がある。

③準教科書「わたしたちの体育」教科書「わたしたちの保健」の活用が分かる授業

- ・授業の展開、活動、掲示などから「わたしたちの体育」の活用が感じられた。
- ・「わたしたちの体育」を持参することを徹底したい。保健の学習の中でも「わたしたちの保健」を開く場面を必ずつくる。